

藤沢市社会教育委員会議
令和4年度6月定例会

議 事 録

日 時 2022年(令和4年)6月20日(月)
場 所 藤沢市役所本庁舎 8階 8-1・8-2会議室

令和4年度藤沢市社会教育委員会議6月定例会

日時： 2022年（令和4年）6月20日（月）
午前10時から

場所： 藤沢市朝日町1番地の1
藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

- ・教育文化貢献者感謝会表彰候補者の推薦について（非公開）
- ・生涯学習ふじさわプラン2026について（公開）

4 報告

5 その他

6 閉会

(出席委員)

川野佐一郎・稲川由佳・伊藤秀樹・長田祥男・窪島義浩・越美紀

瀬戸内恵・西尾愛・西村雅代・三宅裕子・山内千永美・山田勉

(事務局)

横田参事・田高主幹・村田課長補佐・鈴木職員

***** 午前10時01分 開会 *****

川野議長 ただいまから6月定例会を開催します。
事務局から欠席委員の確認と会議の成立についてご報告をお願いいたします。

事務局 藤沢市社会教育委員会議規則第4条により、審議会の成立要件として、委員の過半数以上の出席が必要とされておりますが、委員定数15名に対して、本日の出席委員が12名であることから、会議は成立いたしましたことをご報告申し上げます。ご欠席委員は三浦委員と平野委員と本多委員となっております。

川野議長 本日の傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局 いらっしゃいません。

川野議長 資料の確認も事務局からお願いします。

事務局 (配付資料の確認)

川野議長 議題に入ります。議題(1)、教育文化貢献者感謝会表彰候補者の推薦についてご説明をお願いいたします。

***** 非公開議題 *****

川野議長 議題(2)、生涯学習ふじさわプラン2026について、事務局から説明をお願いします。

事務局 生涯学習ふじさわプラン2026につきましては、本年3月に策定し、4月1日付で施行しました。提言から内容確認と長期間にわたりご審議をいただきありがとうございました。

1月17日の前回定例会以降の経過についてご報告をさせていただきます。

前回定例会においては、パブリックコメントの意見や市の考え方、本編への反映状況について説明し、委員の皆さんからは、パブリックコメント全体についての意見に加え、この計画を今後どう生かしていくかについてご意見を頂戴しました。

1月20日には、副市長を本部長とし、計画事業を所管する各部長で構成される生涯学習推進本部会議、計画事業を所管する各総務課長で構成される生涯学習推進本部幹事会という2つの会議を開催し、最終案について協議しました。

2月には市議会定例会で報告し、2月22日に開催された子ども文教常任委員会に付託されて、質疑に対して、答弁をさせていただきました。報告が了承されましたので、4月1日付で施行することについての意思決定の手続きを行い、4月初旬には、市長、副市長をはじめ市議会議員、関係する審議会委員、そして関係の部課長等、約200か所に冊子を送付し、併せてホームページにも掲載をして周知をさせていただいています。

川野議長

それでは、プラン2026の振り返りを最初に行います。

議題の進め方ですが、まず稲川副議長から2026の骨子について説明をしていただき、その後、子ども文教常任委員会での質疑を読み上げていただきます。

次に、県の協議会で、藤沢市の社会教育委員は生涯学習プランをどう作成して進行していくのかという議論をしてきたことを発言しているのですが、他はそのような認識がない。そんな状況を説明し、最後に皆さんとの意見交換をしたいと思えます。

稲川副議長

皆様と議論を重ねながら、行政で実際の計画をつくっていただいたということで、充実した時間だったと振り返っております。

最初はプラン2021を振り返って、現状とこれからを踏まえながら、どういうものを作成したらいいか皆様からご意見をいただき、議論をさせていただきました。

私たちの考えたことが、どのような形で実際の生涯学習のプログラムになっていくのかは大切なところですので、言葉や、思いにこだわったことはよかったですのではないかなと思っております。

生涯学習ふじさわプラン2021では、個人の生涯学習に重点を置いていたが、プラン2026に向けては、提言の策定で皆様から課題をたくさん抽出していただき、「多様な学びと学びあいから 地域の人がつながり 藤沢の未来を創造する」という理念にまとめられたことはよかったと思っています。

市民の皆様にもたくさんコメントを寄せていただいて、鋭く指摘いただいたこともありましたが、行政としての返答、また意見を鑑みて修正加筆いただき、子ども文教常任委員会でもご意見が出たということもあり、このプランがいろんな目を通してスタートを切っているということをありがたいと思います。

川野議長

2021は事業数が多かったのですが、2026ではかなり絞っていきましよう。それは進行管理もしやすいし、進捗状況も把握がしやすいということでした。

それから、社会問題あるいは社会的な背景になっている多様な学びというものをどう捉えていくのか、従来の、大人の学習という意味での社会教育だけ進めていいのかという問題は残るわけで、学校教育との関係ですとか、Society5.0、人生100年時代、それから藤沢市の基本構想に基づいたものについて初めから議論を進

めていき、中身の濃い議論をしてきたなと思いました。

次に議会の質問について、説明すると分からなくなってしまうから、質問と回答をそのまま読んでください。

事務局

石井世悟委員からの質問です。「今、生涯学習ということで、それこそ、あらゆる生活の一部、一つ一つが学びの機会であるという視点に立って、その自主性をサポートする意味で、今回この生涯学習プランというものがあるのかなというふうに思っております。また、多様化する中、学校や行政だけでは補いきれない地域での様々な取組もその一つに挙げられると思っております。そんな中、最近では行政と各地域の団体と協働して行う事業、まさにマルチパートナーシップを生かした事業、学習の場というものがあると思います。今日、私もピンクのシャツを着て参加させてもらっているんですけども、本庁舎も結構ピンクシャツ、ふじキュンの掲示なんかもして、そのピンクシャツを市内でもアピールするというので、それこそいろんな機会を提供しているのかなというふうに思っております。この生涯学習プランを見ますと、そういったマルチパートナーシップを生かすことというものがどのように反映されているのかということがあまり書いていなかったんですけども、それはどのように行われていくのかお伺いいたします」。

回答です。「今、委員からの御質問にありましたマルチパートナーシップにつきましては、やはりこのプランのほうは、基本理念にもありますように多様な学びというふうに言っております。ですので、もちろん行政だけではなくて、地域、それから地域の企業さん、あるいは民間事業者さん、そして、NPOをはじめとした様々なセクターの方々、そういったものと連携した事業を今回の最終報告に位置づけをしておきまして、それでお示しをしている、そういった形でマルチパートナーシップのほうもお示ししている状況です」。

質問です。「ありがとうございます。そして、今回新たに最終案で出てきました79ページの活動評価方法の検討に書いてあるんですけども、プラン2021では評価の仕組みが挙げられていたけれども、この評価が果たして次の学びにつなげられたのか検証が必要であろうと、評価の仕組みを変えることも、プラン2021と次期プランの変更を象徴するようになる、検討を望みたいというような提言がございましたけれども、これはどのように検討されてきたのかお伺いいたします」。

回答です。「こちらの評価のほうでございますけれども、本編の第4章にも載せているとおり、PDCAサイクルは引き続き、2026のほうでも回していきたいというふうに考えております。2021におきましては、やはり内部評価だけではなくて、社会教育委員会議という外の方々に外部評価という視点を非常に大事に持ってもらいまして、事業を見に行ったり、各課のほうにヒアリングに行ったりということも行いました。ただ、やはり見ていただく事業がどうしても限られてしまうということもありまして、これだけ84事業位置づけておりますので、今後、すべからくいろいろな事業の進捗が果たして生涯学習に資するものなのかという意味では、その評価も限られたものだけでいいのかというような議論もさせていただいております。ですので、PDCAサイクルを回しながら、外部の方の評価もいただきながらという基本は

変えていきませんが、その辺、どのぐらい見に行くかというようなことも含めて、2026では検討してまいりたいというふうに考えております」。

以上です。

川野議長

ありがとうございました。後半の質問は、評価のやり方を検討したらどうかというご質問で、次の審議会に影響させては悪いので意見交換はしません。上の質問については、「マルチパートナーシップを生かすというものがどのように反映されるのかを書いていなかった」ということで、何か意見はありますか。

地域あるいは地域の企業、民間事業者、それからNPO、あるいは福祉団体、青少年団体、文化団体、皆様方が出ている団体からの意見を吸い上げて意見交換をしたわけですが、具体的に形として見えないということをおっしゃりたいのかもしれませんが。学社連携も、コミュニティスクールで試験的に形になってきましたが、ある程度生涯学習を進める主体がマルチパートナーシップになっているのかというご意見だと思います。

皆様方から一言ずついただく前に、県の協議会の関係をお話すると、社会教育主事という資格を持った職員を、本当は教育委員会の事務局に配置するのですが、人数が足りないので公民館の主事として、社会教育主事が派遣されているケースも全国的にはある。本来は教育委員会の事務局に、指導主事としているのが理想ですが、人手不足ということもある。学校の先生でも社会教育の現場にという人事異動があったりする。社会教育主事という資格制度は社会教育法に規定されていますが、称号資格として社会教育士という名前に変えていきたいというのが文部科学省の考え方で、称号として与えるということです。

住民の学習活動の支援のために社会教育士という称号を資格取得するのに、資格の科目から社会教育計画という項目の指定を文科省は落とした。そして新たに生涯学習支援論、社会教育経営論という科目を追加したわけですが、この実態がはっきり見えない。

何を生涯学習は支援し、社会教育経営論というのか、随分生涯学習分科会で議論されました。社会教育士の称号資格が独り歩きして、大学の講習科目の中から、社会教育主事ではなくて、社会教育士の資格を取るための単位認定にシフトした。

分科会を傍聴したときに、社会教育主事というのは教育委員会にいるけれども、もっと自治体行政に役に立つように活動しなければ、意味がないのではないかという意見がすごく強く出た。社会教育主事はいるし、社会教育委員もいるし、社会教育計画はあるのですが、実際に社会教育委員会議会で社会教育計画について議論する自治体というのは、神奈川県では藤沢市と他1市か2市です。リーダーシップを取っていた川崎市も、全市の社会教育委員はいなくなり、区ごとの社会教育委員に変わっていくという。だから、これからも社会教育計画というものを重要視すべきだということを県の協議会では言い続けています。

それでは、皆さんには2026をつくった感想をおっしゃっていただければと思います。

西村委員 コロナ禍の中での計画策定だったので、将来にわたって同じ社会状況なのか、あるいは学びが同じ状況の中で続いていくのかというのを模索しながら議論を進め、皆さんのお話を聞きながら自分でも考えていった気がします。新しい生活様式でのメリットもありましたが、今まで大切にしてきたものを新たな形にできるかどうかということに葛藤しながら、将来を見据えるというのが一番難しかったというのが正直な思いです。

私は昔の社会教育計画がある頃の社会教育主事認定を受けているので、そんなに変わってしまったのだというのが正直な思いと、社会教育委員を2年間やらせていただき、もう1回社会教育は何だろうと自分の中で振り返ることができたのが、よかったですと思いました。

窪島委員 この2年間、ふじさわプラン2026というものを意識させられてきたかなと思います。2026をめくっていると、基本構想のところに関連するSDGsのゴールというものがでていて、今回の大きな特色にもなると感じています。これまでと違ったものをつくるのに携われたことを素直に喜び、感謝させていただきたいと思っています。

山田委員 完成形を見ながら、視察に行ったことや、言葉を選ぶということなど、どのような関わり方の視点で自分の言葉を伝えるかを学ぶ貴重な時間をもらった気がします。学ぶことは自分のステージをアップデートしていくことだと思っていて、そのことが、藤沢市にいらっしゃる方にとってどのように伝わるのか。行政は当然伝える側の立場になるので、伝えることと、あとは受け取る側がどうアクションしていくかということの思いが共有していて、最終的に藤沢のことが好きになる、藤沢に帰属するということに戻ってくる形になってくれるといいなと思い、すごく感慨深く、参加させてもらったのだというのを実感しています。

伊藤委員 私はこの地域で教員をやるのは初めてで、公民館活動であるとか、青少年施設であるとか、そういった活動も含めて非常に活発だなという印象を受けております。

やはり今経済が重視され、経済に直結しないものが切り捨てられていくような風潮があることを、私自身は危惧しております。こういった活動が、子どもたちも含めて、あるいは親の世代、あるいは老後も含めて生涯学び続けるということに非常に大きく貢献しているということをこの1年で実感することができました。

私は市外に住んでおりますけれども、プランを立ててしっかり活動している市というのは魅力的だと映りますし、こういうまちに住みたいと思える活動であると思いました。

瀬戸内委員 冊子のすっきり具合も今の時代にマッチしていて、いろんな方にぜひ見ていただきたいと思っています。

マルチパートナーシップの件ですが、企業であるとか学校であるとか、市役所の横の連携も含めて、いろいろなところでこのマルチパートナーシップらしきものは議

論に多く上がっていたかと思います。それに派生してパートナーシップを組んでいくにはコーディネーターが必要だというところがクローズアップして書かれていたので、議論の中では相当たくさん聞かれた言葉だったのではと思いました。

長田委員

マルチパートナーシップという言葉がこの中に入らなかったのも、おっしゃったのかなど。中を読んでいただければ、マルチパートナーシップと同じ内容の連携とかが書いてあります。

もう1点、総会とか研修会でいろんな地域の市町村の委員の方と話をすると、生涯学習のこのプランを知らない委員の方が結構多い。

簡単に言うと、行政が全部まとめたものを社会教育委員の会議の中でオーケーするかしないかでしかないのも、自分たちがほとんど参加していない。数回の会議だけというところがほとんど聞いて、びっくりしました。藤沢の現状を話しますと、そんなにやっているのと逆にびっくりされて、委員がつくるものでしょうとしつこく言いましたが、理解されませんでした。そういう意味では藤沢市は本当にすばらしい。地域によって全然違うのだなという印象を受けました。

市議会の質問の2つ目は重要なポイントをついていると思います。自分たちで評価したらお手盛りになってしまうので、外部の人たちの評価は重要だと思います。それを取り込んで、よりよいものに変えて発展していくというステップアップはすごく大切で、私たち社会教育委員は重要なキーを握っていると思います。

西尾委員

どういふプランにしたいか、このプランを実際にどういふふうに使っていったらいいかという話し合いもできたのは、事業評価とプラン策定の両方をやっているからならではなのかなと思いました。

この2年を振り返ってみますと、このプランを策定する期間に、コロナ禍だったからこそ、例えばネット環境がない家庭もあり、どうしたらいいか、何を大事にするべきなのかだとか、どんな方も学べる環境に本当にあるのかという話が深く議論できたのかなと思っています。

三宅委員

パンデミック、急激なデジタル化と、時代の転換期にプランの改定に関わらせていただいたとき大変光栄に思っております。人と人がつながること、学び合うことが大事だと改めて認識させられ、これから社会教育の方向を考える上で非常に役立ちました。

今回のプランについては、全体として見たときに時代背景とか社会課題を反映したバランスのよいプランになっていると思っていて、環境問題、SDGs、人権、多様化とかいろんなものが押さえられた中で書かれているので、レベルの高いもののような気がいたしております。

マルチパートナーシップについては、内容的には相当触れられていると思います。例えば公民館では、ほとんどの事業がマルチパートナーシップで成り立っています。スポーツ団体、民間団体、NPO、それから学校、大学、いろんな方の協力を得て公民館の事業が成り立っていて、生涯学習の、社会教育の中核となるところ

の部分でそれが行われているということを念頭にして読んでいただければと思って
おります。

越委員

プランの策定にあたり、多様な学びと学び合いということ、また、いつでもどこでも
誰でも学びたいことが学べる社会の構築ということで、会議に出るたびに事前に資
料を必死に読みあさったり、知らない言葉が出てくると、検索したり、この会議につ
いていくのに必死でした。

各事業に視察に行ったとき、私は浮世絵館に視察に行かせていただきました。
報告書の作成も、長田委員たちとやり取りをして、この2年間いろんなことがあった
なと思いました。

例えば子育てが終わって、次は何をしようと思ったときに、人と人とのつながりを
求めて迷うのではなく、例えば地域に出て学び続けることができるような、そういう
輪を地道に広げていけたらなと思いました。大変勉強になりました。

山内委員

皆さんとお話合いの中で、子どもたちとか地域がこうやって守られているのだと
いうことを非常に感じました。考えてくださる人がいるのだというありがたい気持ちで
す。

私が事業関わった浮世絵館ですが、広報に大々的に浮世絵館の案内や宣伝が
出ていたのに、少しは力になれたのかなとか、皆さんのためになる何かを見いだせ
るのかなと思ったのが一番感動しました。

稲川副議長

プラン2026は84の事業にわたっています。2021では事業の概要として個別の
事業のところに書かれていましたが、今回は事業の目的として書いていただいでい
ます。これによって、この事業は何が目的なのかというのがはっきりしたように思っ
ています。また、事業の内容については、その目的を遂げるための手段であろうと思
っています。

そして、計画、成果目標について、事業によっては数値目標だけではなくて、目
的を達成するために、今年度はこのような目標を立てるといような過程がなされる
と信じています。来年度の進捗管理が最初の状況把握の機会になっていくと思ひ
ますので、行政の皆様にはぜひよろしくお願ひしたいと思っています。

また、生涯学習部以外の部署が担当されているものがたくさんあると思ひます。
担当部署と連携していただいで、場合によっては開催される事業に生涯学習部の
方々にアテンドしていただいくなど、藤沢市の生涯学習の一環であるといようなこと
も庁内とか、学習者の方々に改めてご認識いただいくようにご尽力いただいくたいな
と思ひます。

ほかの部署がやるときに社会教育であるとい認識なしでやっている場合もあると
のことでしたが、これは生涯学習社会の中の社会教育であるといことを認識して
いただいくように行政の皆様にはご尽力いただいくたいと思ひます。

議論の中で地域のコーディネーター機能の充実と申し上げていたのですが、その
中で、行政に責任を持ったコーディネーターがいるといことが最も重要ではない

かと申し上げました。2021では、公民館職員研修は知識等の向上を目的とした事業と示されていたのですが、2026の84番、公民館職員にコーディネーターとしての能力を発揮していただくということを目的に掲げていただいています。公民館職員の皆様が市民を学びの場、活動の場につなげる、ボランティアと地域をつなげる役割を担っていただけるということになるかと思います。ぜひそれを進めていただきたいと思います。

川野議長 それでは、次の議題に入っていきます。報告事項ですけれども、県の協議会の第1回理事会についてということで稲川副議長からお願いします。

稲川副議長 理事会の報告をさせていただきます。神奈川県社会教育委員連絡協議会第1回理事会が5月9日の月曜日、1時半から善行の総合教育センターにおいて開催されました。今回の理事会の議長は、副会長の川野先生がお務めになりました。

議題(1)、令和3年度実施事業については、コロナ禍の中であったため書面開催やオンライン開催という形がほとんどになっています。決算につきましては、コロナ禍の影響で、旅費や開催費用などがかからなかったということもあり、当初計画より大幅の残額ということになり、次年度への繰越金という形になりました。また、令和4年度の事業計画予算についても話し合わせ、原案どおり了承されました。

議題(3)、令和4年度全国社会教育委員連合表彰候補者の選考がありました。社会教育委員活動のためのハンドブックについては後ほど述べさせていただきます。5、令和4年度の役員については、会長を除く3名の副会長につきましては任期が1年となっており、次期副会長を3名選出いたしました。これらにつきましては、24日、総合教育センターで開催される総会において決議されることになっています。

議題(3)、令和4年度全国社会教育委員連合表彰候補者の選考につきましては、県の事務局一任という形になりました。

社会教育委員活動のためのハンドブックですが、今回は大幅な改定は行われませんでした。コロナ禍が反映された内容にもなっています。これは7月に配付されることになっておりますので、そのときにご覧いただければと思います。

今年度の予定ということになりますが、総会は、24日1時半から総合教育センターにて、研修会が8月29日月曜日1時半から同じく善行の総合教育センターにおいて行われます。地区研究会は、11月28日の木曜日、午後に愛川町において、また、来年の2月16日では、箱根町において開催される予定になっています。

また、令和7年度の神奈川県で行われる関東甲信越静社会教育研究大会については、平成26年の神奈川県大会資料を検討しながら、時期についてディスカッションを行いました。テーマ決定などについてはまだ先になるので詳しくは決めてはおりませんが、そろそろ検討していく時期になってきたと思っております。

総会では、聖学院大学の小池茂子会長が講演をされます。講演内容を個人的に伺ったところ、社会教育と生涯学習の関連について、例えば社会教育団体というものはどういうものか、生涯学習社会の中に社会教育の位置づけはどうなっている

えて、何か自分にもできるのではないかという気持ちが芽生えてきました。会議の中での協議のレベルの高さに口をあぐり開いてしまうようなことがありましたが、時々、会議の状況を思い出しながら、今後も藤沢市で生活をしていきたいと思っております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

三宅委員 今回のプランに現在のような地政学的な変化というのは背景にありませんでした。今後、こういった世の中になってきますと、広い視野から、国とか地域社会の安全に向けて、例えば平和とか自由とかの大切さを視野に入れた社会教育というのを取り入れていくことが必要かなというふうに最近思っております。情報過多の世の中になりましたので、地域社会におけるバランスのよい社会教育というのは、大人にとっても子どもにとっても重要になってくると思います。ですから、大きく構えるのではなく、さりげない形で入れていくということがこれから望まれるのではないかなと感じました。ありがとうございました。お世話になりました。

西尾委員 至らない点多々あったかと思いますが、今までを振り返って、本当に様々な立場で様々な経験をされた皆様と、学びについてどうしたらいいか、どうするべきかといった話をでき、すごく楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。

長田委員 文化団体連合会から出ておりますが、文化活動は、見るのも文化活動ですけれども、実際に自分でやってみることでおもしろみを感じられるものです。しかし、社会の中で何を切らなければならない状態に陥ったときに、最初に切られるのが文化活動です。でも、それだと文化国家はやせてきてしまいますので、絶対維持しなければいけない。その支えとなるのが社会教育活動だと思っております。今期でこの会議から引退される方もいらっしゃいますが、社会教育の活動から離れるわけではございませんので、ぜひその地域、それから個人のお立場でもお力添えいただいて、この藤沢市が文化都市として、神奈川県、ナンバーワンになっているのではという自負は持ちたいと思います。本当にありがとうございました。

瀬戸内委員 2期務めましたけれども、やればやるほど生涯学習、社会教育は何だろうと、いまだによく分からず奥深さを感じております。ただ、その中でも、藤沢市がいかに熱心に取り組んでいるかというのが一番の印象でして、私も藤沢市に住んで50年になろうかというところですが、本当にこの市に住んでいてよかったというのが感想です。今後はそういったことを自分の周りの人や地域にどうやって還元していくかというのが私のミッションになってくるかなとは思っています。

もし今後ご縁がありましたらまたご指導を賜りたいと思いますので、その際はぜひよろしく願います。ありがとうございました。

伊藤委員 この1年、本当にいろいろ勉強させていただきました。言葉や社会教育委員会そのものがよく分からない中で、ご指名でやらせていただいたということもありましたので、本当に一から勉強させていただいたなというふうに思っています。

学校教育には長年携わってきたのですが、学校教育の現場で、教育というのは学校と社会と家庭とこの三者が一体となってということ进行を言いますが、言っている割には社会のことを知らない、社会でのいろいろな活動に参加してこなかったなど非常に反省がございます。そういった中で、この社会教育委員会議に参加させていただいていろいろ勉強させていただいたなと思っております。どうもありがとうございます。

山田委員

2期にわたって参加させていただいて、いろいろな方が集まって社会は出来上がっていて、それぞれいろいろなことを抱えながら毎日を過ごされているというのを改めて実感しました。また、学びというものを通じてどんなふうに関われるのかとか、学びを通じてどうやって人に手を差し伸べられるのかとか、学ぶ空間がいろんなところにあるというのを改めて実感しました。

学びが単体で終わるものではなくて、学びを通じて次のステージがある、学びを通じてさらに輪を大きくしていく力が、藤沢にはあると実感しました。これから教育や文化活動に携わられる中で、私たちも何かできることに参画できればなと思います。本当にありがたかったと思います。

窪島委員

この2年間、立場的に小学校の話ができていたのかなと思ながらいた毎日でした。次の期は新しい者が小学校長会からまた出てまいります。少なくとも学校教育はこういうものだと思ながら、社会教育の場は、こういうものだと引き継いでいきたいと思います。2年間どうもありがとうございました。

西村委員

本当に2年間ありがとうございました。30年近くここに住んでいますが、ずっとベッドタウンで、藤沢のことを何も知らずに、この2年間で、藤沢が生活の基盤なのだと思の中に湧いてきたと感じます。

今まで皆さんに話を聞いた中で、行政の立場でも学校の立場でも、それはできないよねと思ってしまう自分がどこかにいたのですが、できないとかできるとかという判断ではなくて、これが必要だから、あるいはこうしていけば変わっていくのではないかとことを皆さんのご意見から学ばせていただいた気がします。

自分の学びになっていて、社会教育委員という立場でいいのかと思うのですが、藤沢の中でまた自分の居場所をつくりながら、ベッドタウンでない、いわゆる生活基盤の藤沢をこれからも目指していきたいと思います。どうも本当にありがとうございました。

稲川副議長

2年間どうもありがとうございました。このメンバーでいろいろな議論ができたのが本当にうれしく思っています。ご退任される方も、地域でいろいろ活躍していただける、俯瞰した目をお持ちになられている皆様です。地域や教育の問題であったり、子育てやそれこそ介護とか、多岐にわたる問題がやはり社会の中にはたくさんありますので、ここで積まれたご経験も使っていただきながら活躍いただきたいと思っています。

私は、県立藤沢西高校の学校運営協議会の委員長をやらせていただいているのですが、前委員の高山先生が校長をなさっていて、スクールポリシーの中に生涯学習という言葉を入れてくださいました。高校生というのは、次の将来を考える大学受験が差し迫ってきている状況にありながらも、貴重な3年間だけれども、それだけではなく、学習をしていく、学ぶということは生涯にわたって行われるもので、その人間が向上していき、幸せをつかむためのものであるという、グラデーションポリシーの文言の中に、生涯学習につなげるということを入れてくださいました。

皆様といろいろここで議論を重ねながら、藤沢の生涯学習について考えていくことができたのは、本当に貴重な時間でありました。どうもありがとうございました。

川野議長

1つ提言をしたいのですが、今は小学生、中学生、高校生、そして次に重要なのは地域における大学の役割です。藤沢市は慶應大学とか日本大学とかがある中で、大学生、あるいは大学が地域を向いてほしいというのが僕の願いです。

藤沢市は長野県松本市と姉妹都市だと聞きました。公民館活動で長野県は県全体が進んでいるし、松本はその中でも全国的に評価が高い市です。松本市と藤沢市が姉妹都市ならば、社会教育の面での交流会をやってみようではないかという提案をして、向こうも乗り気になってきたことがありましたが、松本市が、松本大学を抱き込んで社会教育の学科を設けて講習をやり出して、独自の展開を始めようとしている。藤沢市もそういう連携ができるのかとか、大学がどう地域を考えてくれているのかとか、これからの社会教育、生涯学習にとっては大きなテーマになってくると思うので、ぜひ市当局の人たちのご理解をいただきたいと思いました。

行政とはつかず離れずで、あまり反対ばかりしてもいけないし、あまり納得ばかりしてもいけない、適当な距離を持ってやっていきたいと思います。そういう運営はできたかなと思います。どうも皆様本当にご協力ありがとうございました。

それでは最後に、横田課長からごあいさつをお願いします。

横田参事

(あいさつ)

川野議長

それでは、これで閉会いたします。どうもありがとうございました。

***** 午前11時55分 閉会 *****